

# 判明！ 大崎市市民健康調査ベースライン調査結果から 大崎市市民の生活習慣・健康状態

## 大崎市市民健康調査とは

市民の生活習慣や健康状態を把握し、生活習慣と疾病予防の関係と要因、各地域の健康状態の違いなどの状況を明らかにするため、平成18年12月1日を基準日に、40歳以上の全市民を対象に東北大学と共同で行った調査です。

40歳から64歳の人(若年層)を対象にした調査と、65歳以上の人(高齢層)を対象にした調査が行われ、これまでにかけた病気、健康状態、生活習慣、運動、心の状態などのほか、高齢層を対象にした調査では、介護予防が必要になる人を把握するための事項も加わりました。

- 調査対象 77,235人  
40～64歳：45,998人  
65歳以上：31,237人
- 回答者数および回収率 49,854人(64.5%)  
40～64歳：26,763人(58.2%)  
65歳以上：23,091人(73.9%)



調査の結果から、大崎市の歩行時間の減少、高い喫煙率、不適切な食事回数、心配事や悩みを持っている人の増加、歯の本数の少なさが見られ、これらは特に若年層に顕著に現れました。  
生活習慣病予防のため、これら生活習慣の改善に早急に取り組む必要があります。

昨年十二月に実施した「大崎市市民健康調査」の結果がこのほどまとまりました。このほどまとまりました。十月十五日には大崎市市民会館を会場に、調査を共同で実施した東北大学大学院医学系研究科の辻一郎教授による講演とパネルディスカッションが行われ、調査結果を大崎市の健康づくりに反映させるための取り組みなどが話し合われました。

健康推進課 電話 23311

## 歩行時間は全国調査以下 若い人は半分以上

各年代を通して全国調査(本文中全国調査として)は、平成十六年厚生労働省「国民健康・栄養調査」を下回り、特に六十四歳以下の男性は全国調査の半分以上という驚きの結果が浮き彫りになりました。

区分	男	女
大崎市	40～64歳 31.5%	27.6%
	65歳以上 27.8%	21.5%
全国	40歳代 64.1%	62.2%
	50歳代 62.7%	56.9%
	65歳以上 42.1%	31.3%

## 若い人ほど喫煙率が低い

四十歳から六十四歳の人の調査で、一日の食事回数が二回以下という人は、男性の十七・七%、女性の七・一%でした。この傾向は若年者ほど高く、四十歳台前半の男性は特に不規則で、朝ごはんを食べない人が多いようです。また、豚肉、コーヒーの摂取が多い反面、牛乳、緑茶、

## 現在喫煙している人の割合

区分	男	女
大崎市	40～64歳 49.4%	11.1%
	40～44歳 59.1%	19.0%
	65歳以上 23.1%	2.7%
全国	40歳代 51.4%	13.7%
	50歳代 47.7%	13.7%
	70歳以上 24.0%	4.5%

歩行時間が少ないという意外な結果と、辻教授からの「もっと歩きましょう」という呼びかけに、会場が驚きざわめく場面もありました。

## 若い人ほど喫煙率が高く 高齢層は全国調査以下

大崎市では全国調査と比較すると、若年層ほど喫煙率が高く、逆に高齢層ほど低いことが分かりました。

果物の摂取が少ないという結果でした。バランスの取れた食事をするには健康の大切な条件です。

## 心の健康

抑うつ・不安傾向を有する人の割合は若年者ほど多く、心理的な問題の広がりが増え、高年齢層でも高い数字を示したことは、高齢化社会の進展と高齢者だけの世帯が増えたことが背景にあると考えられます。

区分	男	女
大崎市	40～64歳 16.0%	18.3%
	40～44歳 18.7%	22.9%
	60～64歳 11.5%	13.8%
	65歳以上 11.5%	14.7%
	85歳以上 12.6%	20.9%

## 歯の健康

歯周病と動脈硬化の関係や、かむことが脳の刺激となり認知症の発症にも関係していることが指摘されています。歯の健康は決しておろそかにはできません。調査結果はいずれも全国

区分	男	女
大崎市	40～64歳 68.6%	69.2%
	65歳以上 30.1%	24.5%
全国	40歳代 91.9%	91.9%
	50歳代 79.0%	78.2%
	65歳以上 39.0%	35.0%

調査と比較すると、各年代で自分の歯の本数が少ないという結果になりました。

## 地域活動でリフレッシュ

脳卒中や骨粗しょう症になったことのある人や、特定高齢者(虚弱で要介護状態になるおそれの高い高齢者)の候補者は、抑うつ・不安傾向にある人が多いことが分かりました。

また、地域の活動に参加しない人ほどその傾向が強く、住民が積極的に地域の活動やボランティア活動に参加することは、地域づくりや人の役に立つばかりでなく、自分の心の健康を保つことにも役立つことが調査結果からも明らかになりました。

## 特定高齢者の候補者の特徴

特定高齢者の候補者(該当者とそうでない人(非該当者)の間で最も大きな差が見

## 調査結果を公表します

皆さんの地域でも市民健康調査の結果について講演による公表を行います。ぜひ、ご来場ください。

対象地域	日時	会場
三本木	11月6日(火) 午前10時	三本木総合支所 ふれあいホール
岩出山	11月7日(水) 午後1時30分	岩出山文化会館
松山	11月13日(火) 午後1時30分	松山青少年交流館
鳴子温泉	11月20日(火) 午前10時	鳴子保健医療福祉総合センター
田尻	11月27日(火) 午後1時30分	田尻スキップセンター
鹿島台	11月29日(木) 午後1時30分	鹿島台保健センター

## まとめ

歩行時間の減少、高い喫煙率、不適切な食事回数、豚肉・コーヒーの摂取増加と牛乳・緑茶摂取の低下、心配事や悩みを持っている人の増加、歯の本数の少なさが見られ、これらは特に若年層に顕著に現れました。生活習慣病予防のため、これら生活習慣の改善に早急に取り組む必要があり、脳卒中への早急な対応が課題となっています。また、心の健康でも明らかに変わったとおり、ソーシャル・サポートのさらなる充実が重要です。市では、この調査結果を健康づくり施策やまちづくりに活かすとともに、現在策定中の「大崎市健康増進計画」に反映させ、市民の健康づくりを推進していきます。

## 市長コラム 天・地・人 年金騒動



このたびの国民年金保険料着服事件の告発問題では大変お騒がせし、市民の皆様にご心配をおかけしました。年金制度は、国民の老後を支える国家の大切な事業です。国民年金保険料収納事務は、平成十三年度まで法律により国から市町村が委任されて遂行しておりました。

今回の事案は、平成十二年十一月から平成十三年三月にかけて旧田尻町職員が町民から徴収した保険料を着服したものです。旧田尻町では、社会保険事務所と協議のうえ、本人を懲戒免職し、被害金額の弁済、町長以下関係者七人の処分、議会への説明と審議、広報を通しての住民への呼びかけ、マスコミへの公表などを行い、当時としては極めて厳しい処分であったと考えられます。また、告発も検討されましたが、社会保険事務所の指導がなかったこと、当該保険料納付者の信頼を回復していること、十分な社会的制裁を受けたこと、人道主義的更生・再起への期待等を旧田尻町が総合的に検討し、告発しな

十月二日付けで社会保険庁より「告発を含め、可能な限り厳正な対応の検討を願う」との通知があり、あらためて当時の経緯と対応を検討しましたが、既に厳正な処置をしていることから、市では告発など新たな処分は行わないことと社会保険庁と市議会に報告しました。しかし、厚生労働大臣や社会保険庁は、検討要請の通知とは異なり、本市との協議や調査をすることもなく、告発したことは非常に残念です。国が本質的、確実な解決策を講じ、年金制度の信頼が早急に回復することを願っています。

大崎市長 伊藤 康志